

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム ステラ

ユニット名 同上

自己評価実施年月日 平成 19年 11月 1日

記録者氏名 北川 明子

記録年月日 平成 19年 11月 22日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、地域住民との交流とゆったりとした家庭的雰囲気の中で、個々の尊厳を保ちながら心にゆとりのある生活を支えるための支援を事業所の理念に置いた。	○	地域密着型サービスの定義を職員全員が常に確認することにより、利用者の安心生活が継続できるよう引き続き取り組んでいく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各種ミーティングで具体的な介護サービスのあり方について検討し、理念との整合性について点検している。	○	形式に終わらず今後も取り組みを行っていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌ステラ便りへの掲載。定期的な運営推進会議への上程等行っているが、家族や、地域の方々が参加できるような活動等は行っていない。	○	家族、地域の皆さんが参加のできる四季折々の行事を増やす。そうした場面における理念浸透に努める。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	いきいき百歳体操(火・金) 宅老所(水) 行商(鮮魚：月金、パン屋：月、サンプラザ：火、八百屋：木) 日常的に散歩に出掛け、近隣の住民とのふれあい、買物等において地域の皆さんとのコミュニケーションを図っている。	○	出かけることを増やす事によって、地域の皆さんとのコミュニケーションが更に深まるよう努める。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣との交流は以前よりも増していると思われるが、地域における行事や活動への参加があまり行われていない。	○	今後保育園、学校、周辺の施設等への行事参加。学生ボランティアの受け入れ等検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同一敷地内の高齢者賃貸住宅の居住者が、一時的に状態が悪化したときなどに実費での食事提供をおこなったことはあるが他にはできていない。	○	小規模の為にグループホーム独自の貢献は困難な所もあるが、併設の宅老所等と連携し、地域の方に何かあれば相談できるという存在感を持ってもらえるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価が生かされるよう、項目ごとに見直しを行ったが、一部まだ検討中のところがある。	○	一部に改善不十分な所があるので、この点に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の結果を必ず全員に知らせ(ミーティング) 主旨を説明、理解してもらっている。内容は一つ一つ積み上げる様にしている。	○	今後もどんどん意見を頂き改善に発展させたいと思う。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席をして頂き、情報交換をしている。ただ、会議以外での交流は図られていない。	○	小規模ならではの特性を生かしたサービス提供を行いたいため、会議以外の機会を捉えて、適宜高知市のアドバイスを受けていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	まだまだ権利擁護事業への理解度が低いにも拘わらず、肝心の職員への周知が図られていない。	○	研修会、ミーティング等の機会を捉えて、制度の理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにおいて研修を続けてきた。高齢者虐待防止法に関する理解を深め、その厳守に向けて取り組んだ。	○	更に社会的事例にある出来事・虐待防止を徹底する。ミーティングにて虐待防止の研修を定期的に行く予定。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別援助計画を提示し、その他のサービスについても了解を得た上で契約を締結する。契約内容についてなんでも相談してもらえるよう雰囲気作りに努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各利用者の言動や行動からその思いを察するよう努力しているが、まだ不十分である。	○ 各利用者の不安や意見などを出してもらえる機会や場面作りといったシステムを検討していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	担当スタッフから家族たよりを現在の報告を加えて知らせている。行事の際の写真等添えている。又面会時伝えなかったケースは電話で近況を報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には特に来所時において意見など尋ねているが、なかなか本音を言ってもらえる関係作りができていない。	○ 何でも言ってもらえるような雰囲気作りをどのようにしていけばいいのか？今後の課題にしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からのコミュニケーション、月2回のミーティングや勉強会などで意見を吸収する形にしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な暮らしをできるだけ支えられる様、柔軟な体制をとるべく努力している。又、管理者は利用者の状況に応じた対応が取れるように通常のシフトには入っていない。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	<p>今後において、働きながら学ぶ、段階に応じて学ぶといった機会を作っていくよう努めていく。 年間研修計画作成。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	<p>今後も更に多くのホームとも積極的に情報交換できるような内容に発展させたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	<p>ストレス解消の為に代表者、管理者との飲食を伴う懇親会等も行う。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		<p>職員間のコミュニケーションの充実が何より求められる。ミーティングの後などを利用して職場に対する不満、意見等を吸い上げる様にしている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の状況を十分に把握するために、十分な時間をとり傾聴的態度で臨むよう心がけている。	初期における対応等に関連するマニュアルを作成する必要がある。よって今後検討をしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の立場を理解し、安心して本人が過ごす事ができるか、育んでもらえそうかと不安極まりない状況に対し、しっかりと受け止めるよう努めている。(小規模のメリットとして行き届いたサービスができるということを最大限に強調し職員紹介などもする。)	初期における対応等に関連するマニュアルを作成する必要がある。よって今後検討をしていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所のニーズに応えられない場合があるが、その場合でも励ますなどして将来に希望を持っていただくようなアドバイスを行う。(高齢者支援センターや他のサービスにつなげていくなどの対応)	初期における対応等に関連するマニュアルを作成する必要がある。よって今後検討をしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在は満床ゆえ該当者は無いが、今後の課題にしていきたい。	○ 他の入居者とのトラブルを避ける意味でも、GHになじむという事は重要である。試行的に昼食を一緒にするなどの体験をしてもらう。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	小規模というメリットは個々の特性が十分に把握できるということにあります。その特性を理解し、喜怒哀楽が共感できるようつとめている。又、一人ひとりの感情の起伏により、全体の雰囲気が左右されないよう、職員は常に笑顔が絶えないようなコミュニケーション作りに努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月の電話・手紙・再来時等の中で職員の思いをきめ細かく伝え、できるだけ家族の思いに重なるよう努力しているが、まだ不十分である。	○	より一層緊密な連絡態勢がとれるように努める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の状態をこまめに報告し、相談の中で本人の思いを伝え潤滑油になるように心掛けている。	○	利用者を通じて、家族との信頼関係がさらに増すように努める。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報保護という視点を重視しながら、訪問してくれた友人、近隣の方には出来るだけ多くの話し掛けをしてもらうよう働きかけているが、こうした機会がまだまだ少ない。	○	こうした機会がまだまだ少ないので、近隣の方々が多く出入りしてもらえるよう働きかける。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症であっても人と人との繋がりが不和状態である事は好まない筈。皆仲良く和を大切に助け合う事を働きかけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事例なし。しかし当然大切にしてゆくべきと考えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活のなかで、利用者の表情、言動を注視しながら、思いの把握に努める。少しでも変化がある場合にはミーティング等で確認しあっている。	○ 特に困難なケースの場合には、対応の仕方が個々で違わないように、職員同士で確認し合う。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報保護を前提として、併せて守秘義務がある旨を家族、来訪の友人などに理解を頂いた上で、情報提供をお願いしている。しかし、個々において情報のばらつきがみられる。	○ 個々にばらつきがあるので、さらに情報収集に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活のなかで、できることできないこと、理解できる事できないことの把握に努める。	○ 個々の状況の把握が職員間でばらつきがないように、ミーティング等を通じて情報の共有に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成した介護計画の実行が、職員にばらつきがないように努めている。又、次の介護計画に生かせるよう、日々の介護サービスについては記録が正確に、ばらつきが無いよう努めている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っているが、日々変化する利用者に対して、作成した介護計画が実情にそぐわなくなる場合には、関係各方面に確認したうえで、臨機応変に対応するように努めている。	○ ご家族の場合には、本音の意見が聞けない場合が多いので、来所時など捉えて意見を言ってもらえるように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を鑑み、3項目に分ける形で統一した。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人の要望があれば併設する宅老所への訪問。高齢者優良賃貸住宅に住んでいる自立した高齢者と会話などができる環境になっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんとの関わりはあるが、頻度がまだまだ少ないので、その機会を増やせるように努力していく必要がある。	○	2ヶ月に1回の運営推進委員会に止まらず、老人クラブ、町内会などに積極的に出向き意見交換を行って行けるよう努める。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの利用は行えていない。社会資源を知っていく必要がある。	○	地域のケアマネジャーとの話し合いの機会を作り、情報収集できるよう努める。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月の1回の運営推進会議で地域包括支援センターの職員が参加されており、周辺情報などの情報交換、協力関係を築いているが、会議のみの関わりとなっている。	○	まだまだ交流が少ないので、多くするよう努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族の納得の上、2回／月の往診を受けている。個々の異常発見に努め微細な事でもご意見を聞くようにし安全を保つように心掛けている。ご家族と協力し通院介助も行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医が脳外科専門であるため、周辺症状がきになる場合には専門医の受診もおこなっている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理職兼ケアマネージャーは看護師である。毎日の異常の早期発見、早期治療、薬剤に関する事項、健康管理等を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを少なくする為医療機関との連携をよくしている。入院に際しての連絡事項は書面を持って行っている。家族と連絡を取り情報交換し、医療との連携の中改善又は症状について確認している。(早期退院に向けて)		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は該当なし。	○	重度化、終末期の態勢については確かに最後まで看取りをするということも大切ではあるが、今後の課題にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	対象者がいないということもあり、支援態勢の協議は行っていない。	○	これからの課題として位置付けたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今まで(1年2ヶ月前)に該当する事例があっている。その後の訪問もあっていて環境や暮らし方の伝達を地域の方々に伝えていて安全を確認していた。	○	今後に於いてマニュアル化する必要を感じている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳保持に努め、プライベートに関する事を他に話さない・もらさない、対応の仕方も人前では目立たず・さりげなく・やんわり行う等の徹底を図っている。	○	今後も更に意識向上の為、ミーティングの折に点検を行う。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	買物、好きな物を選んで手に持ってもらおう。食事については今何を食べたいか、飲みたいか聞いている。おやつ時にはテーブルの上に4~5種類の菓子等を並べ各自に選んで手に取ってもらおう。	○	落ち着いてゆっくり声を掛け、どうしたいかを表情・声・動き等で受け止め支援する。(これからも自己決定場面が増える様に工夫する)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとした1日を過ごしていただくという視点を大切にしている。買い物や散歩など、一人ひとりの思いや状態に配慮しながら対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	元美容師の職員が、皆の美容を受け持ってくれてカットをしている。更衣に於いては本人の決定に時間がかかる事が多いが、先々言わないようあくまでも自己決定を優先している。	○	おしゃれ、身だしなみは生きていく上で基本である。本人の自己決定を尊重しながらゆったりと見守っていく。理美容においては、外部との関わりを大切にしていきたいことをふまえ検討していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今日の食べたい物を品目の中から選んでもらったり、調理は盛付・洗い付等共に行ったりしている。職員は利用者と同じテーブルで気持ちを落ち着ける意味で、合掌後頂く様にしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	各々から、飲みたいもののリクエストをとるようにしている。(ジュース、お茶、牛乳、ヨーグルト等)しかし、現在、アルコールの提供はしていない。	○	雰囲気作りをして、好きな方にはアルコールの提供も考えたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁し易い利用者は2.3時間毎に声かけ。必要に応じて誘導し排泄行為のチェックまで習慣化へ向けて支援している。現在のところオムツはずしの事例は無い。	○	排泄パターンを十分把握したうえで、オムツを使用しない方向で努める。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望があれば毎日でも入浴できる態勢をつくっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ケースにもよるが食事中少し休まれる方、食後横になられる方、夜不眠だった方・前日の外出疲れが残っている方等に、椅子にもたれていたり長椅子で休まれたりと自由に過ごせるよう支援している。個々の睡眠リズムを大切にしながら、一方で1日だらだら傾眠状態にならないように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各々、お願いできそうなことを頼み、可能性を広げているが、まだ、全員をその状態に導いていない。	○	利用者全員が何らかの役割を持ってもらえるよう努める。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の入った財布を持ってもらい訪問販売（パン屋・八百屋・魚屋の行商）の方から好みの品を選んで自らお金を出しお釣をもらう行程を見守りの中で支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日2～5回散歩を希望される方があり他の方も一緒に外出されている。地域の皆さんに声を掛けてもらい笑顔で交流あり。(猫、ご近所の方々と交わる)	○	今後は外出するだけでなく地域に密着した行動が取れる様に1人1人の思いを大切に行動させたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常的な外出支援は定期的に行えているが、個別性の高い特別な外出支援への取り組みにおいては現在は行っていない。	○	現状ではなかなか困難な点もあるので、ボランティアや家族の協力も得て、そういう機会を増やしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される場合のみである。家族の状況が様々で今後の検討が必要である。	○	支援が出来るよう努める。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	最近1事例の知人の訪問を受け、元気だった頃の友人からの内容が分かりイメージが広がった。12月には食事会にお招きし好きな歌と踊りを披露して下さる予定。	○	知人、友人関係があればそうゆう方々に来てもらえるよう働きかける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	去年の市の調査のとき指導を受けている。その後改善計画を提出し、4回にわたりミーティング時の身体拘束に関する勉強会を行った。その後も点検を続けている。	○ 今後どうゆう方が入られても、身体拘束は人権侵害であるということを認識し、特例を除き絶対生じないように努める。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事例：日中3～4回の外出（炎天下の散歩）を勢いをつけて出て行かれる。1人の時は職員が動けないので当人が出て行きそうな状況を素早く読みとり手前から環境・雰囲気等に気をつけ対応できるように対策をとった。	○ ヒヤリ・ハットにならないように本人の行動に目を離さない。前項と同様の取り組みの持続。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の近くで見渡せる状況を確認できる。同じテーブルで記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒液など一見飲み物と勘違いしそうな物については手の届かない、目の触れない場所へ収納し、事故が起きないように努めている。	○ 今後においても、利用者の状況に照らしながら、厳重に保管すべき物、利用者が使うときに注意が必要なものに分けて管理していくように努める。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	花壇につまずく、道路コンクリートの凹凸、自転車がスピードを出してすぐ傍を通り抜ける等の事がない様気をつけている。	○ ヒヤリ・ハットのなかで、問題点を抽出し、重大事故にならないよう努める。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル作成し備えてある。全員に研修中。	○ 必要に応じて追加・変更予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を行ったり、運営推進会議などにおいて、協力を呼びかけている。	○	今後において、現在実施している取り組みを続けていくとともに、各関係機関との連携、情報交換にも努めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	1日4回前後の外出(散歩)を希望される方が夏の高温時帽子・日傘を嫌がるため、家族の方に状況を知らせ来所して頂き共に考えどうしても危険な時は玄関の施錠を許可してもらったが、結局は対応する事で解決した。	○	他の利用者の中でも問題のあるケースについては、ご家族の今までの経験からの良案を話し合ってきた。今後も抑圧や強いる事を避ける方法を考えていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	有熱である事の報告を受け1,000ml以上の水分補給を指示し、計2,500mlの水分を摂取し朝の体温は36℃台に安定する等。	○	体調変化に気づいたときの連絡態勢においては、直ぐに管理者に連絡報告をおこない、職員間で共有し対応していく態勢今後も続けていくよう努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については毎回注意内容を1つ1つ点検し氏名・日時を確認する。又不安な場合は第三者の確認を得て納得後服薬終了まで見とどける様になっている。又、管理者は、出勤時に服薬状況、薬の点検を義務としている。	○	服薬事故は問題が大きい為、今は良くてもいつ何が起こるか分からない。気を緩めずチェックを怠らない。習慣化を目指す。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	緩下剤ではなかなか調整しにくくヨーグルトやヤクルト繊維性食品を使って、個々の排便の様子を毎日チェックし善通便～軟便あたりでの排泄を1人1人確認している。	○	今後も食事・運動の上、緩下剤の力を借りながら毎日チェックを行っていきたい。(怠らない)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアへの声掛けを行っている。又、口臭の強い方については歯科通院中(家族の介助)で唾液の量が少し減っている。又ご家族に連絡し受診を計画しているケースもあり。	○	チェック表にて食後の歯磨きの確認をおこなっていくよう努める。また、定期的な歯科受診も検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1,500ml/日の水分摂取を目標にしている。個々の好みを踏まえ栄養バランスを考えながら調理している。(調理師の免許を持ったスタッフがいます)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防の研修を受講。ミーティングにてスタッフに重要事項や対策における検討会を行った。又、感染症予防におけるマニュアルの作成もした。	○	今後、全スタッフに共通の理解・周知を求めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やフキン等は毎日消毒を行っている。食材においても使用する前に期限切れではないかとしっかり確認している。食材の余りは安全を考え処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはプランターがあり、色々な花・植物が咲いている。又玄関に生花を置く事で季節感を感じさせている。	○	現場スタッフの価値観で決めている様な所もあるのでもっと利用者や外部の意見を取り入れていくようにしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂においてはクラシックや童謡等心地よい音楽又季節に応じた料理の提供を行い、居心地良さ、季節感を取り入れている。浴室やトイレにおいては利用者にとって不快感がないよう常に清潔を保っている。	○	現場スタッフの価値観で決めている様な所もあるのでもっと利用者や外部の意見を取り入れていくようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者が隣同士になるよう席の配置をしているが、共同空間の中で1人になれるといったスペースを設けていない。	○	ゆったり感を演出する為、BGMなどにも配慮していくよう努める。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室においてそれぞれ個性があり写真を飾ったり仏壇をまつてあったりと過去に自宅にあった物や愛用していた物を置いている事で安心して過ごせるよう配慮している。	○	まだ他にも自宅で愛用していた物等あるかもしれないので、家族の訪問時等に情報収集を行っていききたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングや各居室においては定期的に換気を行っている。トイレにおいては換気扇及び消臭剤、空気の入替えで悪臭が残らない様配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンクや調理台の高さは概ね利用者に適していると思われる。生活空間においても利用者の導線上にはほぼ段差はなくバリアフリーな状態であり安全確保への配慮をしている。	○	食器乾燥機や食器棚においては少し高い所への設置となっている。その為利用者の作業がし易いという視点ではないので改善を検討したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレなどの所在の表示をしている。また、利用者には極力自分の行きたい場所をスタッフの口頭により説明し、個々の「わかる力」を見出せるよう試みている。	○	個々の把握が出来ていないところもあるので、全員の分かる力の把握に努める。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先の花の水やりや、建物の裏のスペースを利用して洗濯物を干しに行ったりしている。又時々屋上や建物の周りを利用して散歩するをすることもある。	○	利用者が涼んだり、日向ぼっこができるスペースを作ったり、花や植物を植えられる環境設備を検討したい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①個々に合ったケアが提供できる様に日々努力している。
②いきいき百歳体操への参加。体操と共に外部の方との交流。
③毎日の散歩から地域の方々との接触を広げたい。
④全体の和を望んでいる。